

◎中国侵略—柳条湖事件(1931. 9. 18)→つくられた「満州国」(32. 3) 平頂山事件(「匪賊」討伐(32. 9)⇒32年7600人、33年8700人、34年8900人、35年1万3300人、36年1万700人)→盧溝橋事件(37. 7)-南京大虐殺()・重慶無差別爆撃()→三光作戦(「殺しつくせ・焼きつくせ・奪いつくせ」軍が侵攻した地域では、しばしばおびただしい性暴力が引き起こされる)、強制連行4万人、毒ガス・細菌兵器使用。731細菌戦部隊=人体実験

3 台湾に対する戦争責任を問う

- ① 1874年台湾出兵、中国に対する最初の戦争。注目すべきは武力によって台湾を奪ってしまおうという提案が日本の政府内で行われていたこと。つまり明治政府は初めから侵略的であったことを示すものではないかということ(1872年の時点で派兵準備)。派遣軍隊3658名、軍艦5隻、運搬船13隻投入。割譲に反対する島民たちは組織的な武装闘争を展開するも力で鎮圧される。山岳地帯にすむ原住民の掃討作戦も展開、「首切り」なども行う(台湾大学の「日本資料室」)
- ② 台湾は1895年の日清戦争講和条約により清国から日本に割譲され、日本が初めて獲得した植民地となる。皇民化政策、日本語強要、創氏改名など朝鮮同様「同化政策」をすすめる。特に反動的な原住民に対しては徹底的に弾圧、多くの人々の命を奪う。代表的な事件が1930年「抗日霧社(ムシャ)事件」が起こる。台中から車で1時間かかる霧社地方の6部落の原住民3約00に人が駐在所、日本人宿舎、小学校運動場を早朝襲い134名の日本人を殺害する。この事件は台湾そして日本中を震撼させる。台湾総督府は「高砂族」の蜂起と報じ、軍警察大動員、空からも爆弾投下、毒ガスも実験的に使われたという。弾圧の結果700人以上が犠牲になる。(1996年1日かかって霧社を訪れ「霧社山鵬抗日義紀念碑」に手を合わせる)
- ③ 日本の戦争に参加させられた21万人の台湾人軍人・軍属(内戦死者3万人)。「日本政府は何の補償もしていないという事実がある。私は1996~3年間台湾調査、元日本兵4名とその妻たちとから聞き取り調査。戦時中の生々しい体験談、いつも一緒にいた仲間たちの死、日本政府に対する不満、怒り、悲しみ、様々な思いに触れることが出来た。生涯忘れることが出来ない出会いであった。当時80歳前後の方々、彼らの願い、思いは日本政府に届いていないまま。
- ④ 1945年夏、インド洋の孤島カーニコバル島で80余名の島民がスパイ容疑で「銃殺刑」を受ける。この事件の取り調べに関わった台湾人軍属安田宗治、学徒兵木村久夫らは戦後戦犯に問われる。「何ら死に値する悪はしたことはない」(木村の遺書)と書きながら死刑。問われるべきは日本の戦争責任。(1995年、英国公文書館にて英国軍事裁判記録を調査)
- ⑤ 台湾人従軍慰安婦

4. 朝鮮植民地支配・加害行為と戦争責任

- ① 日清戦争(1894~05)で戦場と化し、農民の抗日闘争(東学党の乱)の鎮圧、朝鮮侵略が強まる中、ロシアと市場争奪の闘い⇒日露戦争(1904~05)が勃発、そのさなか日本は朝鮮の財政や外交権を奪い「乙巳(ウルサ)保護条約」を強制的に結ばせる。日本が朝鮮を植民地化する第一歩となった。「韓国(1897年に国名を大韓帝国とする)の軍隊の解散、日本軍の自由な行動、政治も日本がとり仕切る」。民衆の不満爆発、反日義兵闘争の高揚(1907から2年間の参加義兵数11万4千人余、犠牲者1万4500名=この数字、日清戦争時の日本軍の戦死者数と同程度)。
- ② 1910年8月、「日韓併合条約」が強制調印。第1条には「韓国皇帝陛下は韓国全部に関する一切の統治権を完全にかつ永久に日本国皇帝陛下に譲与する」と。
「地図の上 朝鮮こくに黒々と墨をぬりつつ」(石川啄木)一朝鮮が地図から消えた!「併合」が発表されると朝鮮全土は大地をたたいて泣く声に満ち満ちたという。初代総督府の寺内正毅は「日本人に従わない朝鮮人は死ね」と言い放ち、むき出しの暴力支配が行われる。
- ③ 1919年3月1日所謂「三・一運動」、全土で「独立万歳」を叫ぶ集会デモが広がる。警察、軍隊が一体となった憲兵警察が大動員、死亡者7509名、負傷者1万5961名、逮捕者約5万、